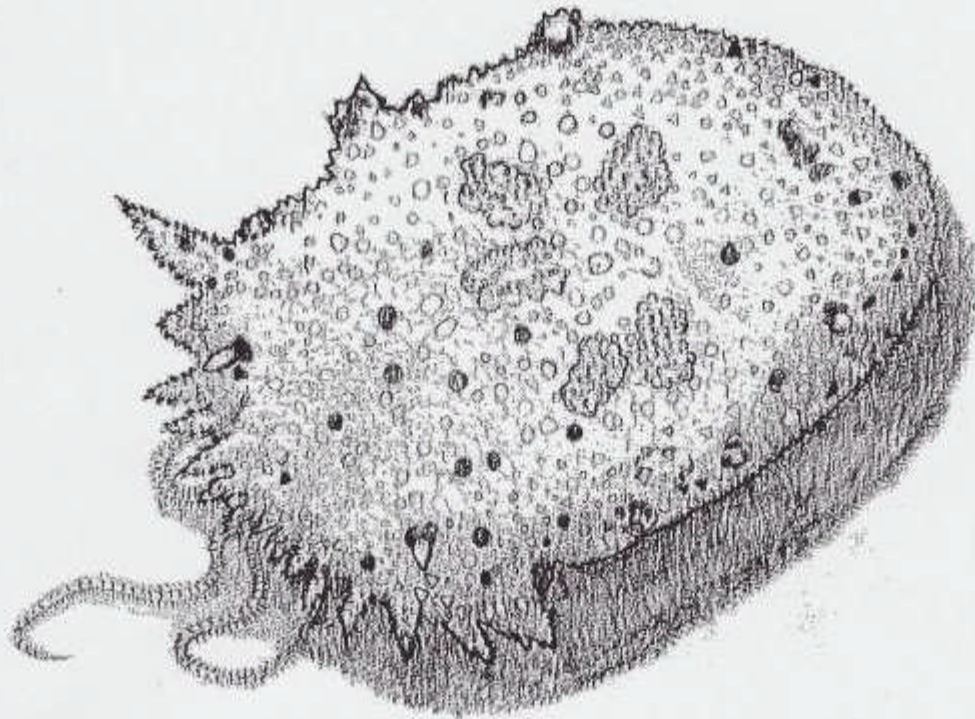


ワツナギソウ通信

2008年(第15号)



Kalinga ornata ハナデンシャ

ブルーミュージアム

(竹野スノーケルセンター・ビジターセンター)

CONTENTS

大浦湾の常連客・クロサギ	2
事業報告	3
土曜観察会アルバム(2007年度)	4, 5
山陰海岸国立公園の成り立ちと生き物	6, 7
大浦MAP	8
自然観察情報	9
海の温水プール化?	10
イベントスケジュール	11
自然解説員珠玉の一枚	12

大浦湾の常連客・クロサギ *Egretta sacra* (サギ科)

いつものようにクロサギが大浦湾にやってきました。「おっ!クロサギ!」の声と同時に双眼鏡を手に確認。「うん、いつものアイツだ」。大浦湾の常連客ともいえる一羽のクロサギがいるのです。岩場から岩場へと獲物を求め、時には荒波に何度も飛び込み、果敢に獲物をゲットすることも。そんな姿を目にすると、思わずこちらにも力が入り、見事魚を捕らえたときには「やった!」と声が上がります。さて、話は戻って、なぜ同じ個体とわかったかということ、右脚の黒いアザ、これで見わけていたのです。クロサギの脚はふつう黄色っぽい色をしています。たまたま、大浦の常連クロサギは、そこにアザがあったというわけ。

でも、この常連クロサギ以外にもクロサギがやって来ているかもしれません。大浦湾でクロサギを見かけたら、右脚に注目です。(つ)

クロサギは、体がすす色の黒色型と全身純白の白色型があり、南西諸島以南では白色型が多くなります。竹野で見られるのは黒色型。



クロサギ

事業報告

主催事業

- 土曜観察会 11月24日(土)「落ち葉を集めて…」 12月15日(土)「クリスマスを作ろう！」
12月22日(土)「クリスマス会」
1月12日(土)おもち・おだんご どっちがお好み?
2月26日(土)「海藻でいろいろ…」 3月8日(土)「みんなで作ろうアルバム」

PV(パークボランティア)研修会 3月1日(土)ピオトープ整備・反省会

2007年度の竹野地区パークボランティア(PV)研修会には、19名のPVの方々が集まりました。午前中は小雨の中、竹野町和田にあるピオトープの整備を行いました。周辺の草刈り、生き物達のための水場の確保、間伐材を利用した里道の補修などの重労働に汗を流しました。午後からは2007年度のプロセス反省会を行い、スノーケル教室の指導方法や安全管理について白熱した議論を交わしました。なお、この場で上がった救命道具と防風雨屋外施設は2008年度よりセンターに設備されることになりました。



ピオトープ整備
杭打ち

- 企画展 10月4日(木)~12月14日(金)「大浦海岸の自然展」
1月11日(金)~4月30日(土)「大自然からのメッセージ展」

協力事業

- | | |
|-----------|---------------------------------|
| 11月8日(木) | JICA 研修生受け入れ |
| 11月15日(木) | 21世紀東アジア青少年大交流計画 モンゴル高校生訪日団受け入れ |
| 11月22日(木) | 城崎中学校トーク |
| 11月25日(日) | 野生復帰フォーラム(主催:豊岡市教育委員会) |
| 11月28日(月) | 竹野小学校3年生総合学習 |
| 2月4日(月) | 高等学校教育研究会生物部会但馬支部 |
| 2月24日(日) | 環境交流フォーラム(主催:但馬県民局) |
| 3月28日(金) | 豊岡市教育旅行・海洋体験 |

受託事業

とよおか子ども野生復帰大作戦

~子どもカリキュラム~

- | | |
|---|---------------------|
| 11月18日(日)いい汗かこう!山登り。来日岳にチャレンジ(悪天候のため中止) | |
| 12月16日(日)「森のきこり体験」 | 1月27日(日)「野生の食べ物大作戦」 |
| 2月10日(日)「雪ん子大作戦」 | 3月15日(土)「春の森で遊ぼう」 |

~大人カリキュラム~

- | | |
|------------------------------|----------------|
| 12月9日(日)「森のきこり体験」 | 1月20日(日)「野生と食」 |
| 2月3日(日)「雪まつり下見シミュレーション」 | |
| 3月9日(日)「一年間の振り返り・八代ジッパー実践報告」 | |

~パネル展~

- 11月21日(水)~30日(金)野生復帰展(豊岡市アイティ市民プラザにて)

土曜観察会 07

4月 春のランチパーティ



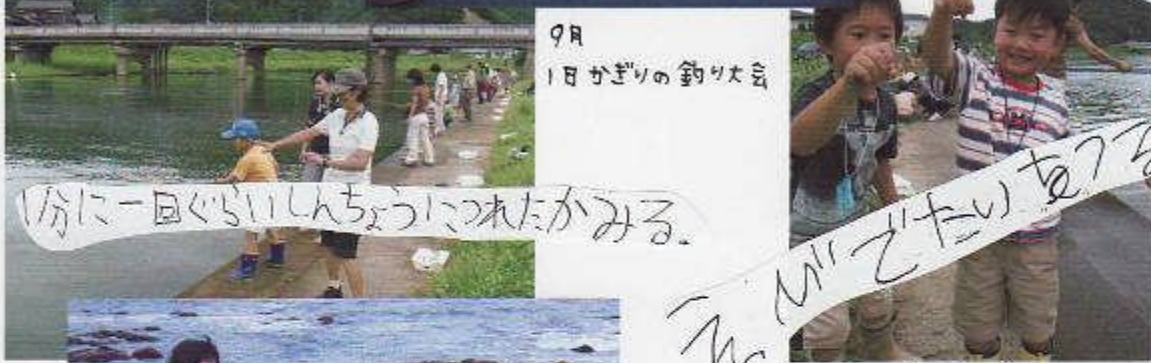
5月 ミクロの世界 巨人体験



6月 ホテル 観察会



9月 1日 さぎりの釣り大会



11月 落ち葉を集めて...



10月 大浦借り物の競争!

アルバム



12月 No.1 クリスマスケーキ作り!



サンタがおもしろかった



きれいに飾りました



おもしろかったのは 菊がつまみく
いして下ろす

12月 No.2 クリスマス! 全員集合!



大豆ひきねこか? ひきねこか?

1月 おもちゃ? おだんご? どちがお好み?



2月 海藻でいろいろ!



3月

みんなで作ろう! アルバム4

はるがらる、ゆまでのけしんをつくり
たいです。

家庭では、とろろの体験を映画でして
いたが、できた
娘も、楽しかった
あんなに、うたが、うたが、うたが、
たのしく、うたが、うたが、
うたが、うたが、うたが、

山陰海岸国立公園の成り立ち

1870年、アメリカのワッシュボーン・ラングフォード・ドーン探検隊がイエローストーン地方を踏査したおりに、その原生的な自然に感銘を受け、将来にわたり国民のものとして継承していくことを提案しました。そして、2年後の1872年に、世界最初のイエローストーン国立公園が誕生したのです。

日本の国立公園制度は、アメリカの国立公園の誕生に影響を受けたもので、1931年に国立公園法(現在は自然公園法に改正)が制定されました。そして1934年に初の国立公園(瀬戸内海・雲仙・霧島)が誕生しました。

当初、国立公園は「名所・旧跡・伝統的な探勝地」「山岳など原始性の高い自然の大風景」の保護と利用の増進を図り、国民の保健、休養、教化に役立てることが主な目的でした。その後様々な変遷を経て、現在は野生生物やその生息環境の保護をも含む多様な内容となっています。

さて、当センターが位置する山陰海岸国立公園は1963年に国定公園から昇格しました。京都府、兵庫県および鳥取県にまたがる日本海沿岸東西約75kmの海岸線を中心に指定され、海中公園も含まれます。公園には鳥取砂丘に代表されるような砂質海岸が点在し、玄武岩の名前の由来となった玄武洞があり、その柱状節理地形を見ることができます。このような事由により、「地質の公園」、「岩石美の公園」とも呼ばれて目下「世界遺産・ジオパーク」指定に向けての運動が展開されています。当センターから東側に第一種特別地域の猫崎半島、またそれと同等のランクにあたる海中公園が西側、黒崎鼻先に望むことができます。

貴重な動植物も多く生息し、環境省レンジャー・同レンジャー補佐官が環境保全のために日々奮闘しています。しかし、広大なエリアを網羅するには、絶対的人数が足りません。当センター職員及び環境省登録のパークボランティア(注:規定の講習を受けた者。2年毎に更新)もできうる限りのことを行っていますが、更に一人でも多くの方の協力が望まれます。

では、この山陰海岸国立公園内にはどのような生物が生息しているのか、その一部を紹介しましょう。(む)

～生き物たち～

スナビキソウ

Messerschmidia sibirica (ムラサキ科)



スナビキソウ

スナビキソウは波を受けやすい場所、すなわち砂浜や、ゴツゴツした岩場と砂が混じった大浦海岸などに自生している。なぜスナビキソウは塩分を多く含んだこの地を選んで自生するのだろうか。他の植物たちも春から秋にかけて、日当たりの良い砂浜に進出しようとするが、一度波を被れば枯れてしまう。それでも進出してくるのがスナビキソウである。本当に不思議な植物だ。

サクラの開花と共に芽を吹き始め、5月中頃から末に

かけて開花する。今から 50 年程昔は何処でも見られ、海辺に住む住民や子どもたちはスナビキソウが咲くことで、季節を知ることができ、ジャコ（兵庫での方言、カタクチイワシ）がやって来る時期になったことを感じるのであった。

しかし、今ではテトラポッドや防波堤、海岸道路などで海岸が変化し、自生場所が少なくなり、兵庫県の特選絶滅危惧種に指定されている。とうとう竹野町内で一番多く自生しているのは、当センターがある大浦海岸だけとなった。

夏が終わり海岸に秋風が吹きはじめ台風到来の時期を迎える頃、スナビキソウは枯れ始める。種子は波によって砂と共に海へと流され、砂浜は徐々にその形を変える。また、冬の荒波で砂地は砂利へと変化し、漂着物が多くなっていく。そして春、南風が吹く頃海岸にはまた次第に浄化された砂が戻ってくる。ちょうどスナビキソウが芽吹くタイミングに合わせるように。

数少ない自生地となった大浦海岸でさえ、人間が作り出した赤や黄色、白といった色鮮やかな漂着ゴミが居座り、スナビキソウの自生場所がますます減少しているのは悲しい。

* スナビキソウには「旅をするチョウ」として有名なアサギマダラが吸蜜にやってきます。（た）

ハヤブサ *Falco peregrinus* (ハヤブサ科)

桜の咲く頃にヒヨドリの大群が海岸に沿って北上します。あるときヒヨドリが水面すれすれに飛んだり、なんと岩場をまるでアリのように歩行したりする異様な光景を目にしました。「???」首をかしげたとたん、弾丸のようなスピードで飛んでくるハヤブサが目に入りました。どうやらヒヨドリたちはハヤブサの動きを察知していたものと思われます。

山陰海岸の断崖絶壁には数カ所繁殖地が確認されていますが、繁殖は必ずしも順調とはいえないようです。通常の観察は困難ですが、冬に水田わきの電柱に留まったり、川で水浴びをしていたりするのに遭遇することがあります。（ほ）

タイマイ *Eretmochelys imbricata* (ウミガメ科)

前日まで波の高い日が続いていた2月13日、香美町の安木浜で漂着物を物色していると、30cm程のなんと可愛らしいウミガメが波打ち際で「凍死」していました。「残念だったな、せめて骨格標本に・・・」と持ち上げたらいきなり前脚が『ビクッ』、「生きてるっー!!」。急遽、延命措置をとるため、センターで保護することに。種を判別してみると、なんとタイマイではありませんか。環境省のRDBで絶滅危惧種、ワシントン条約で保護指定もされている種類です。じわじわ温めながら、エアーチューブを使った人工呼吸で応急処置をした後、城崎マリワールドに移送。飼育スタッフさん達の懸命の治療も虚しく、その2日後、センターに悲報が届きました。死体は日本ウミガメ協会でも学術研究に利用していただくことになりました。で、この話は終わりません。ちょうどこの原稿を書いていた4月27日、今度は小浦でタイマイの死体が発見されました。死後しばらく経ったもの。海では何が起きているのでしょうか・・・。（は）



タイマイ

大浦MAP '07

平井島

ゲートから駐車場まで、冬鳥達(オオジュリン・ジョウビタキ)が賑やかです。(10/30) オオジュリン キジョウビタキ キジョウビタキ

大浦西側でフカサハマギクが咲いていました。(10/30)

日本海

二つ岩

竹野川にサケが遡上していました。橋の上からでも観察できますよ。(11/11)

駐車場でトベラの実がはじけています。(11/22)

アオイガイの殻が漂着しました。(11/18)

ボランティアルーム センター P

© Takeno SCVC 聖休暇村

情報内容 H.19年10月27日～11月29日

平井島

大浦のすぐ西、安木浜ではタイマイが漂着！凍死寸前です…(2/13)

2月24日は波高6m！翌日は海藻とゴミがてんこもり(2/25)

今冬の雪は二月に入ってからが多め(2/15)

日本海

二つ岩

漂着したキンチャクダイ。熱帯性の魚です(2/25)

ダツが漂着！なんと体長は80cm(2/14)

ボランティアルーム センター P

© Takeno SCVC 聖休暇村

情報内容 H.19年1月29日～2月29日

大浦海岸自然観察情報

2007.11.1~2008.3.31

- 11月 22日 オオセグロカモメが3羽飛来
13日 ケヤキの枯木にヌメリスギタケ発生
18日 アオイガイの殻が漂着
29日 アオスジガンガゼ4個体生息
30日 クロサギ飛来
- 12月 1日 平井島沖に100~200羽の海鳥の群れ
竹野浜新港でハナデンシャが浮遊
13日 ソデイカ(アカイカ)漂着
24日 タイドプールにカワセミ飛来
25日 オランダミミナグサ・ブタナ開花
ヒジキ・ソソなどの褐藻確認
27日 ウミアイサ飛来
- 1月 4日 ムラサキトビムシ発生
6日 アオスジガンガゼ3個体確認
8日 ヒメウがセンターデッキ下の湾採餌
11日 竹野浜新港にリュウグウノツカイ漂着
14日 円山川河川敷でケアシノスリ確認
18日 センターの裏デッキにハギマシコ50~60羽確認
- 2月 1日 ハリセンボン1個体漂着
3日 スイセン開花
6日 オオイヌノフグリ開花
11日 休暇村の駐車場付近にルリビタキ確認
13日 安木浜にタイマイが漂着
14日 ダツが漂着
25日 キンチャクダイが漂着
- 3月 16日 二つ岩にカルガモ4羽確認
22日 休暇村遊歩道にタチツボスミレ開花
27日 来館者の方がタコブネの殻を発見
28日 スナビキソウ発芽
29日 ハماغミの実確認

海の温水プール化？

大浦湾には、対馬海流によっていろいろな物が流れ着いてきます。

生きているものやかつて生きていたものといったような自然物から、ゴミと呼ばれるようになった人工物まで...

毎年、秋になると対馬海流に乗って南方からやってきて、秋の水温低下とともに死んでしまう死滅回遊生物といわれる、ソラスズメダイやオヤビッチャ、ミナミハコフグなどがやって来るのですが、昨年度は少し変り種がやってきました。ミノカサゴとアオスジガンガゼです。センターでは、この2種類は初確認です。



ミノカサゴ



アオスジガンガゼ

漂着物にはいろいろなものがあり、珍しいものや初めて流れてくるものがあったとしても当然でしょう。ただ、ちょっと困ったことにこの2種類、どちらも危険生物なのです。ミノカサゴは背びれなどに毒があり、アオスジガンガゼは長く折れやすい棘を持っています。

そして、アオスジガンガゼは2月まで生きているものが確認され、その数も大きさも増えていました。

また、2月24日にはキンチャクダイ（幼魚）も漂着しました。

なぜ、こんなことが起こったのでしょうか？

2001年度4月より測定を続けている水温（注1）をみると、昨年度の夏場の水温は例年と同じように上がっているのですが、下がるのは1ヶ月程遅れていました。10月になって、ようやく25のラインをきったのです。

海水温が上がり死滅回遊生物は、生きていられる期間が長くなりました。

さて、この大浦湾温水プール、今年の営業（笑）はどうなるのでしょうか？

ちなみに11月15日、気温17・水温21の曇り空のもとモンゴル高校生達とスノーケルをしました...。（む）

（注1） 水温測定方法は、5月～11月頃は、平井島の海面下5m地点で水中カメラに備わっているセンサーで測定。
12月～4月頃は、海況の関係で水中カメラを引き上げるため、センター前の表層水温を測定。



キンチャクダイ

イベントスケジュール

(2008.5月~2009.3月)




各種教室 (9:30~11:30 / 13:00~15:00)

- スノーケル教室(6月~10月・要予約) 参加費 大人3,900円(中学生以上)
小人2,400円(小学4年生以上)
- 磯観察教室(5月~9月・要予約) 参加費 大人1,000円(中学生以上)
小人500円(3才以上)
- カヌー教室(6月~10月・要予約) 参加費 大人3,900円(中学生以上)
小人2,400円(小学4年生以上)
- ネイチャークラフト(要予約) 参加費 600円/人

* その他いろいろな教室を用意しております。ブルーミュージアムにお問い合わせください。

土曜観察会 (要予約・要参加費)

親子(対象:幼稚園・保育園のお子さんと保護者の方) 時間:10:00~12:00)

- 5月31日 「春のビオトープであそぼう!~くんちゃん あ~そ~ぼっ!~」
- 7月12日 「夏のビオトープであそぼう!~レッツ・ゴー!ちびっこたんけんたい~」
- 10月25日 「秋のビオトープであそぼう!~秋のたからものさがし~」
- 12月20日 「冬のビオトープであそぼう!~冬のふしぎはっけん!?!~」
- 2月28日 「早春のビオトープであそぼう!~のひみつ~」

一般(対象:小学校高学年~成人向け)

- 6月21日 19:00~21:00 「ホテルの観察会」
- 9月13日 10:00~12:00 「海の生き物の観察会」
- 11月29日 10:00~12:00 「森の中の観察会」
- 1月31日 10:00~12:00 「冬の海辺の観察」
- 3月21日 10:00~14:00 「春のビオトープの観察会」

イベント

- ファーストスノーケル 6月1日(日) 9:30~11:30 / 13:00~15:00
- ラストスノーケル 9月21日(日) 9:30~11:30 / 13:00~15:00

ブルーミュージアム企画展

- 山陰海岸国立公園展 5月1日(木)~8月31日(日)
- 子ども野生復帰展 9月5日(水)~10月31日(火)
- パークボランティア展 11月10日(水)~3月31日(火)



Photo/ Shinji Haramoto

ウミウ *Phalacrocorax capillatus*(ウ科)

表紙絵

ハナデンシャ *Kalinga ornata* (ハナサキウミウシ科)

発光することで有名ですが、採集例が少ないウミウシで、生態などはほとんどわかっていません。昨年(2007年), 12月1日に竹野町在住の桶本さんが竹野新港(シーサイドホテル前)で流れ藻についていたものを発見し、当センターに当センターに持って来てくれました。

ブルーミュージアム (山陰海岸国立公園竹野スノーケルセンター・ビジターセンター)

住所 〒669-6216 兵庫県豊岡市竹野町切浜大浦1218

TEL・FAX: 0796-47-1932

E mail: info_ev@takeno-scvc.jp

HPアドレス: <http://www.takeno-scvc.jp/>

開館時間: AM9:00~PM4:45 入館無料

休館日: 12月30日~1月3日

ワツナギソウ通信 No. 15 2008年5月31日発行

発行: 竹野スノーケルセンター運営協議会

表紙イラスト: 本庄四郎 レイアウト: 村田美津子・井上昌子